

2025 年度 一般選抜前期日程 〔看護学部〕 小論文（図表理解）
出題の意図と解答の傾向

この試験には、以下 2 点の問題訂正があります。

1 頁

【誤】問題（150 点）

【正】問題

4 頁

【誤】図表 5 高齢者の健康と生きがい（喜びや楽しみ）と健康状態

【正】図表 5 高齢者の生きがい（喜びや楽しみ）と健康状態

問題

【出題の意図】

令和 6（2024）年 6 月に、我が国の合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子どもの推計人数）が過去最低の 1.20 となったことが発表され（令和 5（2023）年概数）、我が国の少子高齢化、人口減少問題は、ますます重要な課題となった。そうした状況の中で、高齢化の現状と将来推計を正しく理解し、高齢者の健康に着目して考察するような問題を作成した。

下関市立大学看護学部は、「医療機関や療養施設に限らず人が生活する場において、（下関・関門地域に暮らす）人々がその人らしく生活し、健康で幸せに生きることを支える看護専門職者を養成する」ことを掲げている。本学を受験し、将来看護職を目指す受験生には、我が国が直面している少子高齢化社会の様々な課題に目を向け探究する姿勢を持っていることが期待される。特に、厚生労働省が公表するデータや内閣府が公表する高齢社会白書に掲載されたデータを提示し、公的機関が公表する情報を正しく解釈する必要性をも汲み取れる設問とした。

設問は 2 つあり、設問 1 では、「日本の高齢化の現状」を提示された図表から正しく読み取り、解釈することを求めた。設問 2 では、高齢者の健康を、社会活動に関連させて読み取る力を試した。高齢化のニュースや話題は様々に報じられているため、一般論として記憶している内容を論述するのではなく、提示された図表のデータを客観的に正しくとらえ、それらの解釈をふまえ、自分の意見をまとめる力があるかをみた。

本入試問題をきっかけに、受験生が高齢者の健康について深く考察し、人々の健康を支える看護専門職者となるための意識を持つことを期待した。

<設問 1>

【解答のポイント】

提示された図表のすべてのデータを正しく読み取り、複数の図表を統合して解釈し、論述することができたかを評価する設問である。設問 1 では、「日本の高齢化の現状」を図表 1～図表 3 までの 3 つの図表から解釈することを求めた。

図表 1「日本の高齢化の推移と将来推計」には、人口の推移・人口の構造の変化・将来推計が表されており、「実績値」「推計値」「14 歳以下人口数」「15-64 歳人口数と割合」「65 歳以上人

口数」「高齢化率」「合計特殊出生率」など、様々なデータが一つの図表に組み込まれている。この中から、「日本の高齢化の現状」を論述するために必要な情報を読み取り、解釈し論述できることを期待した。

図表 2「平均寿命の推移と将来推計」には、男性および女性の平均寿命の実績値と将来推計（推計値）が表されている。直近の 2021 年では男性が 81.47 歳、女性が 87.57 才であり、男女差はあるものの、男女ともに年次推移で平均寿命が延びている。また今後も平均寿命は伸びることが予測されている。

図表 3「健康寿命と平均寿命の推移」には、男性および女性の平均寿命と健康寿命の年次推移が表されている。この図表からは健康寿命・平均寿命ともに年々伸びていること、男女とも健康寿命は平均寿命より短いこと、年次推移を見ても健康寿命と平均寿命の差が縮まっていないこと、女性の方がこの差が大きいこと、などが読み取れる。

【解答の傾向】

設問 1 は多くの受験生が正しく解答できていた。特に高齢化率、平均寿命については、多くの受験生が図表を正しく読み取り論述することができていた。しかし健康寿命については、健康寿命・平均寿命ともに年々伸びていることにふれることができていても、「男女とも健康寿命は平均寿命より短いこと」、「健康寿命と平均寿命の差が縮まっていないこと」、「女性の方がこの差が大きいこと」までを論述した受験生は少なく、健康寿命の現状を正しく解釈するには至っていなかった。

<設問 2>

【解答のポイント】

設問 2 は、図表 4～図表 7 までのデータを適切に読み取ることができたか、複数の図表を統合して考え、論述することができたかを評価する設問とした。論述の中に自分の意見も入れる必要があるが、あえて「図表 4～図表 7 のすべてを用いて、高齢者の健康状態と課題について説明し、あなたの意見を述べなさい（600 字以内）」と問うことで、提示された図表を適切に読み取る力と、自分自身の意見を論じる力を見ることとした。この問い方によって、今までの試験勉強で得た知識で問題を解くのではなく、あくまでも提示された図表を適切に読み解く力が必要になってくるように工夫した。

図表 4「年齢別および性別の健康状態」には、年齢別および男女別で「健康状態は良い」「健康状態は普通」「健康状態は良くない」者の割合が示されている。80 歳以上になると「健康状態は良くない」者が増えていることから、健康寿命も読み取れる図表である。

図表 5「高齢者の生きがい（喜びや楽しみ）と健康状態」では、生きがいを感じている人が「健康状態が良い」ことを表している。

図表 6「高齢者の健康についての心がけと健康」には、健康についての心がけがあるほうが「健康状態は良い」「健康状態は普通」が多く、また年齢が若いころから健康についての心がけがあるほうが健康であることが読み取れる。また日頃心がけている内容では、「地域の活動に参加する」「散歩やスポーツをする」「趣味をもつ」者のそれぞれ 4 割以上が「健康状態は良い」と回答しており、健康状態は、「地域の活動に参加する」「散歩やスポーツをする」「趣味をもつ」などの心がけを若いころから行うことで良好となる可能性があることが読み取れる。

図表 7「高齢者の社会活動への参加と健康状態」では、社会活動に参加したの方が参加しない者より「健康状態は良い」「健康状態は普通」の割合が多いが、社会活動に参加したいと思わない理由には「健康体力に自信がないから」「人と付き合うのがおっくうだから」などがあり、社会活動に参加すれば「生活に充実感ができた」と思えることもある。この図表は、社会活動は高齢者の健康状態にプラスに働く可能性があるものの、社会参加したくないと思っている高齢者がいるという課題もあり、そこに対して受験生がどう考えるかを問いたいと考えた。

【解答の傾向】

設問 2 は、図表 4～図表 7 のすべてを用いて、高齢者の健康状態と課題について説明することとした。「年齢別および性別の高齢者の健康状態（図表 4）」「高齢者の生きがい（喜びや楽しみ）と健康状態（図表 5）」「高齢者の健康についての心がけと健康（図表 6）」「高齢者の社会活動への参加と健康状態（図表 7）」の一つ一つの図表を用いて、高齢者の健康状態と課題を論述することは概ねできていた。

特に、①年齢が高くなるにつれて「健康状態は良くない」者が増えている、②生きがいを感じている者の方が感じない者よりも「健康状態が良い」割合が高い、③健康についての心がけがあるほうが「健康状態は良い」「健康状態は普通」が多い、④年齢が若いころから健康についての心がけがあるほうが健康である、⑤「地域の活動に参加する」「散歩やスポーツをする」「趣味をもつ」者のそれぞれ 4 割以上が「健康状態は良い」と回答している、⑥社会活動に参加したの方が参加しない者より「健康状態は良い」「健康状態は普通」の割合が多い、などについては論述できていた受験生が多くいた。

設問 2 では、社会活動に参加したいと思わない理由に「健康体力に自信がないから」「人と付き合うのがおっくうだから」などがあるという図表を盛り込むことで、受験生たちが、社会参加を望まない高齢者の存在をどのように理解し、課題として考えるかを問うこととしたが、そこまで丁寧に論述できた受験生は少なかった。

設問 1 で見た「高齢化の現状」をふまえた上で、設問 2 で高齢者の健康状態と課題」を自分自身の意見を交えながら論述することは、600 字という文字数制限がある中では難しさもあったと察する。しかし、それ以前に、「～率が長い」、「若い年齢」、「平均寿命が増加する」など、日本語表現が適切ではない記述も散見した。自分の考えを正しく伝えるためには、基本的な国語力は身につけていることが望ましいと考える